
口げんかと仲良し

春華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

口げんかと仲良し

【Nコード】

N3386Y

【作者名】

春華

【あらすじ】

アレンが女の子になって、神田と恋する？

D・Gray-manの二次です。どうしても、書きたくて書いてみました。アレンが女以外は、原作と特に違いはありません。ただし、話の進め方は原作丸無視です。基本ほのぼのしています。

読んでください！

第一夜（前書き）

はい！初めての二次です。他にも二作品やっけていて、大丈夫かよ、という感じですが、どうぞお読み下さいませ。

第一夜

「だあくから、私はアレン・ウォーカーですって何回言えばいいんですか！神田！」

「はっ！何回言われようが、てめえの名前なんぞ耳に入るか、モヤシ」

「おっ、ジヨニー。．．．なんだあ？またやってるのか、アレンと神田。もう、熟年の夫婦のようだな．．．」

「あっ、リーダー班長！ほんとですよ。もうさっさとくつついちゃえばいいのに．．．」

「それは死んでもありえませんか！」「それは死んでも願ひ下げだな」

『誰がこんな奴と！』

ここは、黒の教団本部。日々戦うエクソシストたちのホームだ。ここでは、ある名物がある。

それは、美形エクソシスト、神田と新人エクソシスト（女）、アレンの熟年夫婦の口げんか．．．「違います！断じて」．．．もとい、小競り合い（？）である。

それはそれは、仲の良い二人の口げんかを教団のメンバーはいつも温かい目で見守っていた。

アレンは、白髪で髪がおなかの辺りまで伸びている。なかなかの美少女で、片目に赤い筋がかよっている。団服は前が開いたジャケットにミニスカート。イノセンスは、寄生型で、発動すると、大きな手の様になる。

神田は、黒い長髪をポニーテールでしばった、日本風なエクソシスト。イノセンスは刀。そして、ものつすごい美形、長身である。

「あつ！リナリー！助けてください！」

「あつ、アレンちゃん。どうしたの？」

「神田がいじめるんですー」

「てめっ、うそ泣きして、リナリーにしがみつくな！」

「神田！駄目でしょ！アレンちゃんは女の子なんだから！」

「うぐっ！てめっ、きたねえぞ！」

そこで、アレンは黒い笑顔でにやり。

「もやし・・・、今日こそはぶっ潰す！」

「ええ！望むところですよ！」

「んもっ、アレンちゃんと神田つたら・・・」

「今日も二人は仲良しさあ」

「ラビ！お帰り」

「やつ！ただいま」

リナリーは教団きつての美少女だ。イノセンスは、脚力アップのブーツ。ツインテールで、面倒見の良い、お姉さん。

ラビは赤髪に眼帯のたれ目。イノセンスは鎧。明るい性格で、皆よりお兄さん。さらに、各地を記録してまわるブックマンだ。

「それにしても、またやつてるんさあ、アレンと神田。こりないねえ」

「まあ、出会いが会いだし・・・仕方ないのかもね」

「んー・・・でも、十分仲良しさあ。心配いらななさあ」

「誰が、こんな奴と仲良しですか！」「誰がこんなモヤシと」

「何で聞こえるんさあ・・・。息もびつたし・・・」

「ラビ、それ俺も思った。」

「僕も。」

「おー、リーダー班長にジヨニー！ただいまさあ。」

『おかえり』

「大体、なんですか！もやしって！ネーミングセンスの欠片もありませんね！」

「はっ！てめえなんぞの為に使うネーミングセンスなんてあるか、モヤシ」

まだまだ、口げんかは止みそうにない。

第一夜（後書き）

アレン 「はい。お読みいただきありがとうございます！」

ラビ 「こんな駄文で、読むのたいへんさあ。お疲れ様」

春華 「いや・・・否定できないけど、作者に向かってそれは・・・」

リナリー 「それよりも、神田とアレンちゃん以外、説明ひどいじゃない！」

神田 「俺はこんなに怒ってねえぞ」

春華 「・・・はい！では次回は・・・」

一同 『無視！？』

春香 「うるさい！私だって文才ないのは自覚してるんだい！」

アレン 「そうでしたか・・・で、次回はなんなんですか？」

春華 「アレンと神田の出会い話です。では、読んでくださり、本当に本当に・・・」

一同 『ありがとうございます！』

第二夜（前書き）

・・・遅くなってまことに申し訳ありませんんんんん！！！！

うう、まだ春華に愛想尽かしてない人、読んでくださいますせ

第二夜

さて、こちらは黒の教団本部。

毎朝のごとく行われるそれ。そう、神田とアレンの口げんか。

今日も仲良く食堂で行われておりました。

「まったく、毎朝ずるずる、ずるずると！神田、よく飽きませぬね！っていうか、神田は胃袋まで馬鹿なんですか！まったく、救いようもありませんね！バカンダ！」

「お前にだけは、胃袋が馬鹿だとは言われたくねーな。何だ、毎朝馬鹿みてーな量食いやがって」

「私が食べてるんじゃないでしょう！私のイノセンスのせいです！しょうがないじゃありませんか！ー！」

「まーた、喧嘩してるさー。で、今日は何が原因なんさ？リナリ」

と、ラビがオロオロしながら喧嘩を見守っているリナリーに質問する。

「え、んーとね、神田が食べてたそばのつゆが、アレンちゃんの服にかかったみたいなの……」

それだけで、あそこまで喧嘩できるんか・・・、とリビも含め多数が思っただろう。

そこで、あまり口を出さないクロウリーが、珍しく質問をした。

「なんでそこまで仲が悪いのであるか？」

「それはですねえ・・・！」

アレンが、聞いてくださいよまったく・・・、と言う感じで説明を始めた

くくくくくくくくくくくくくくくく

時はアレンがまだ黒の教団を探して、町をさまよっていた頃。

「ねえティム、黒の教団、どこだろうね」

と、アレンは半ば独り言を漏らしていた。

その時、突然路地裏のあたりから“ドーン”という凄まじい音が聞こえた。

「!?!?!?・・・なんだ」

その音のした方へ向かう。

すると、そこには一人の女の子と、異形のものがあった。

丸い球体の機械に人の顔をした仮面のようなものがついている。

「アクマか……！」

そのアクマに女の子は襲われようとしていた。

アクマから助けようと、イノセンスを発動しようとしたとき……

「六幻抜刀……！」

そう聞こえたかと思うと黒い服を着た、一人の青年がアクマを倒してしまった。

アクマを倒した青年は、とてもきれいな顔立ちをしていた。

しばらく、ポーズとしていたが、ふと、恐ろしいことにアレンは気づいた。

アクマを倒したポニーテールの青年は、怖がって泣いている女の子のそばに、めんどくせえという顔で、近づいていつている。

アレンは、急いでそこに走りより、

「……ごめんね。哀れなアクマに、魂の救済を」

と、小さくつぶやき、女の子を壊した。

青年は怪訝な表情でこちらを見て、

神田とともに、黒の教団へ向かっているとき、ふと神田が口から漏らした……。

「お前、そんなモヤシみてえなのに、イノセンスごついな……」

それは、当然アレンはムカッと来たようで……

「そ……それは、初対面でいきなり失礼すぎませんか!？」

と、ここから毎日の喧嘩が始まりましたとさ

ちなみに、無口な神田がなぜ、そんなことを言ったかというところ、顔はそこそこのなにな、という思いがあったからなのだが、まだそれに、神田は気づいていない

く
く
く
く
く
く
く
く
く
く

「お前、そんなモヤシみてえなのに、イノセンスごついな……。ですよ!ひどくありません!？」

「そんなに、事細かく覚えてるなんてな……。よかつたな。食料の分だけ記憶力増えてるみたいだぞ?無駄にな」

「神田はそばしか食べてないから、記憶力ありませんもんね」

と、また喧嘩がはじまる。

「まあ、喧嘩するほど仲がいいって言うあるからな・・・」

「そうね」

「やっぱり、二人は仲良しさ！」

そんな喧嘩を、教団は今日も、暖かく見守っていました。

『仲良く「ないです!」「ねえ!」「』

…<うじ

第二夜（後書き）

一同『ありがとうございます！！』

春華「うう、みなさん。遅くなつてすいません！基本亀更新です！
ご了承下さい！」

ラビ「ところで、一つきになったんだけど・・・」

春華「何？」

ラビ「アレンって、原作（男）とあんまり口調とか変わんないから、
違和感がまったくないんさ」

春華「ああ！そうだよね！私も思った」

原作アレン「いや、ぜんぜん違いますから！」

春華「ああ！だめだよ！原作アレンは出てきちゃ・・・もう。さ
で、それでは次回は・・・何しよう」

春華以外「おおい！！！」

春華「えっと・・・とりあえず、アレンと神田の合同任務の話にし
ます！では、次回も・・・」

一同「お願いします！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3386y/>

口げんかと仲良し

2011年12月8日00時48分発行